

### Ⅲ 耕地の利用状況

#### 1 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率（令和元年）

(1) 田畑計の農作物作付（栽培）延べ面積は401万9,000haで、前年に比べ2万9,000ha（1%）減少した（表14）。

これは、野菜、果樹等の作付（栽培）面積が減少したためである。

田畑計の耕地利用率は91.4%で、前年に比べ0.2ポイント低下した（表14）。

(2) 田の農作物作付（栽培）延べ面積は222万haで、前年に比べ1万6,000ha（1%）減少した（表14）。

田の耕地利用率は92.8%で、前年に比べ0.2ポイント低下した（表14）。

(3) 畑の農作物作付（栽培）延べ面積は179万9,000haで、前年に比べ1万3,000ha（1%）減少した（表14）。

畑の耕地利用率は89.8%で、前年に比べ0.2ポイント低下した（表14）。

表 14 令和元年農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率

区 分	田 畑 計			田			畑		
	作付（栽培）	前年との比較		作付（栽培）	前年との比較		作付（栽培）	前年との比較	
	延べ面積	対差	対比	延べ面積	対差	対比	延べ面積	対差	対比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
作付（栽培）延べ面積	4,019,000	△ 29,000	99	2,220,000	△ 16,000	99	1,799,000	△ 13,000	99
水 稻（子実用）	1,469,000	△ 1,000	100	…	nc	nc	…	nc	nc
麦 類（子実用）	273,000	100	100	172,300	1,000	101	100,800	△ 800	99
大 豆（乾燥子実）	143,500	△ 3,100	98	116,000	△ 2,400	98	27,600	△ 700	98
そば（乾燥子実）	65,400	1,500	102	38,200	100	100	27,200	1,400	105
な た ね	1,900	△ 20	99	…	nc	nc	…	nc	nc
そ の 他 作 物	2,066,000	△ 27,000	99	423,300	△ 13,900	97	1,643,000	△ 12,000	99
耕 地 面 積	4,397,000	△ 23,000	99	2,393,000	△ 12,000	100	2,004,000	△ 10,000	100
耕 地 利 用 率	91.4%	△0.2ポイント	…	92.8%	△0.2ポイント	…	89.8%	△0.2ポイント	…

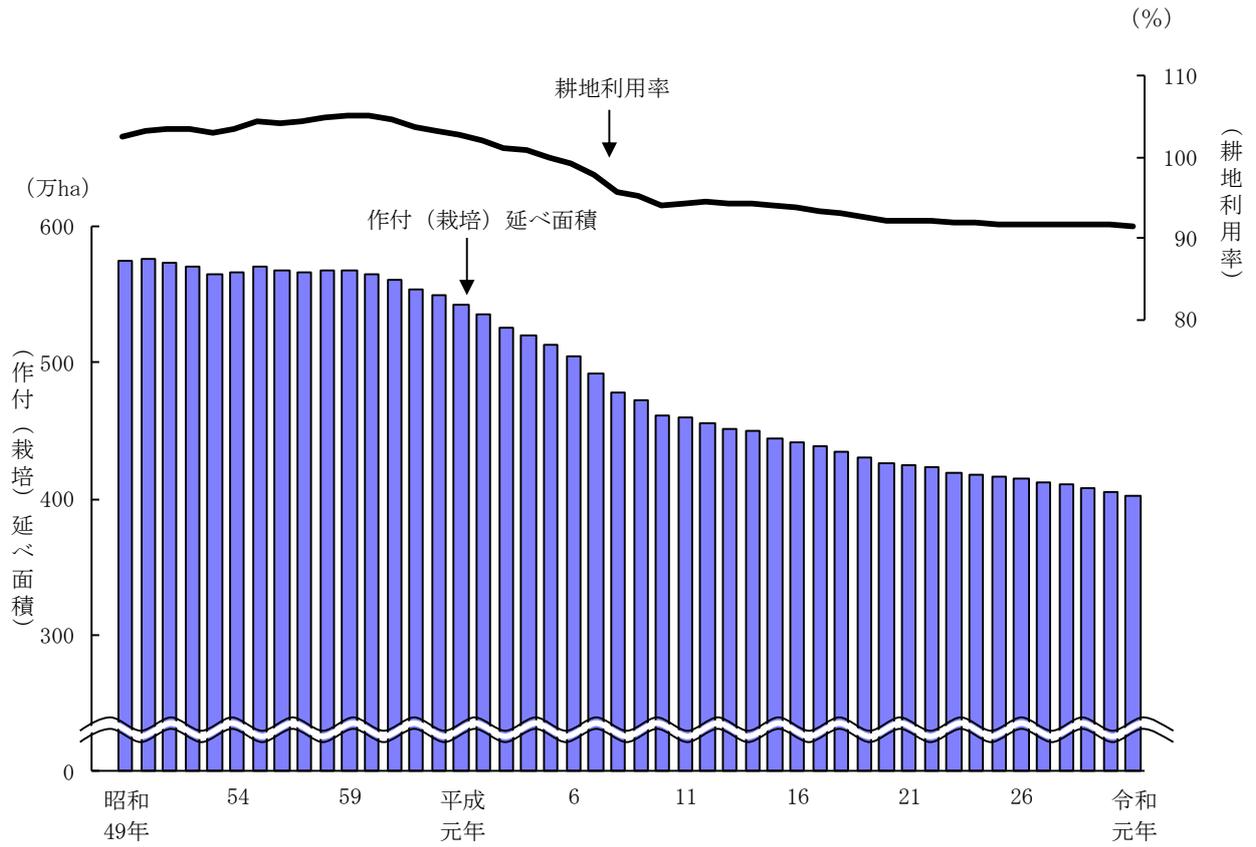
注：耕地利用率とは、耕地面積を「100」とした作付（栽培）延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率（％）} = \frac{\text{作付（栽培）延べ面積}}{\text{耕地面積}} \times 100$$

(4) 作付（栽培）延べ面積の動向をみると、昭和49年から昭和60年は麦類の生産振興による作付面積の増加等からほぼ横ばいで推移した。昭和61年以降は作物ごとに増減はあるものの、総体的には減少傾向で推移している（図12）。

(5) 耕地利用率の動向をみると、昭和49年から平成4年までは100%を越えていたが、平成5年に100%となり、平成6年には99.3%と100%を下回った。平成7年以降はほぼ低下傾向で推移し、平成23年以降はほぼ横ばいで推移している（図12）。

図 12 農作物作付（栽培）延べ面積及び耕地利用率の推移



## 2 夏期における田本地の利用状況

(1) 令和元年夏期（おおむね水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は158万4,000ha（青刈り面積を含む。）で、8,000ha（1%）減少した。

水稲以外の作物のみの作付田は40万3,000haで、4,300ha（1%）減少した。

また、夏期全期不作付地は27万4,100haで、前年並みとなった。

この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は70.1%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は17.8%、夏期全期不作付地の割合は12.1%となった（表15）。

表 15 令和元年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2,261,000	△ 12,000	99	100.0
水 稲 作 付 田	1,584,000	△ 8,000	99	70.1
水稲以外の作物のみの作付田	403,000	△ 4,300	99	17.8
夏 期 全 期 不 作 付 地	274,100	700	100	12.1

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあるものの、水稲作付田は減少傾向で推移し、夏期全期不作付地については増加傾向で推移している（図13）。

図 13 夏期における田本地の利用状況の推移

